

宝生会月並能

平成三十一年一月十三日(日)
午後一時始
於 宝生能楽堂

演目の解説

翁

シテ田崎 隆三

面箱 山本泰太郎
三番三山本 則秀
千歳 金井 賢郎

大鼓 佃 良太郎
胴脇 住駒 匡彦
頭取 曾和 正博
手先 住駒 充彦

笛 一噌 隆之

後見 宝生 和英
金森 秀祥

地謡

東川 尚史
高橋 憲正
野月 聡
辰巳 満次郎

金井 雄資
武田 孝史
今井 泰行
東川 光夫

昆布売

山本 則俊

若松 隆

狂言「昆布売」(こぶり)

用があつて都へ上る者が大名ですが、今日太刀を持つての道中は格好が悪いと思つています。通りがかりの者を捕まえて、「太刀持」をさせようと考へておる。昆布売で来たのは、若狭の国・小浜のろへやつて来たのは、若狭の国・小浜の昆布売の瞬間から「太刀」つまり武器の場は逆転していきます。

能「東北」(とうほく)

都へ上つて来た旅の僧は東北院にて梅の花を眺め、その梅の名を和泉式部と聞き、なお佇んでいると、美しい女性が声を掛け、ここは和泉式部の住いであつたところだ、その梅は和泉式部ではなく、式部の愛した「軒端の梅」だと教へます。さらに、我こそ和泉式部の霊であるとな乗つて消え失せました。その夜の僧の夢に美しい宮廷女性の姿となつた和泉式部の住い、東北院の有様を懐かしく思ひ出し、和歌の徳を讃え、舞を舞つて、思ひの住処の方丈に帰ると見えて消え失せました。

東北

シテ山内 崇生

ワキ 工藤 和哉

ワキツレ 則久 英志
" 御厨 誠吾

間 山本泰太郎

大鼓 内田 輝幸
小鼓 幸 信吾

笛 松田 弘之

後見 亀井 保雄
前田 尚廣

地謡

亀井 雄二
小林 晋也
小倉 伸 二郎
佐野 登

小倉 敏章
高橋 淳雄
三川 俊樹
朝倉 樹

16:35

国栖

天女 藪 克徳
姫 小倉 健太郎
子方 藪 俊太郎
シテ 登坂 武雄

白頭 瓦キ 森 常好

ワキツレ 館田 善博
" 梅村 昌功
" 間 山本 則俊
" 若松 隆

大鼓 安福 光雄
小鼓 森澤 勇司

太鼓 三島元太郎
笛 槻宅 聡

後見 中村 孝太郎
佐野 由於 順
大友 順

地謡

澤田 宏司
和久 莊太郎
水上 優 亘
高橋 亘

大坪 喜美雄
小林 与志郎
當山 孝道
藤井 雅之

〱 休憩 十五分 〱

次回予告

平成三十一年二月十日(日)
午後二時始

右 近 高橋 亘

鉢 木 前田 尚廣

文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

